

1 認知症高齢者数について

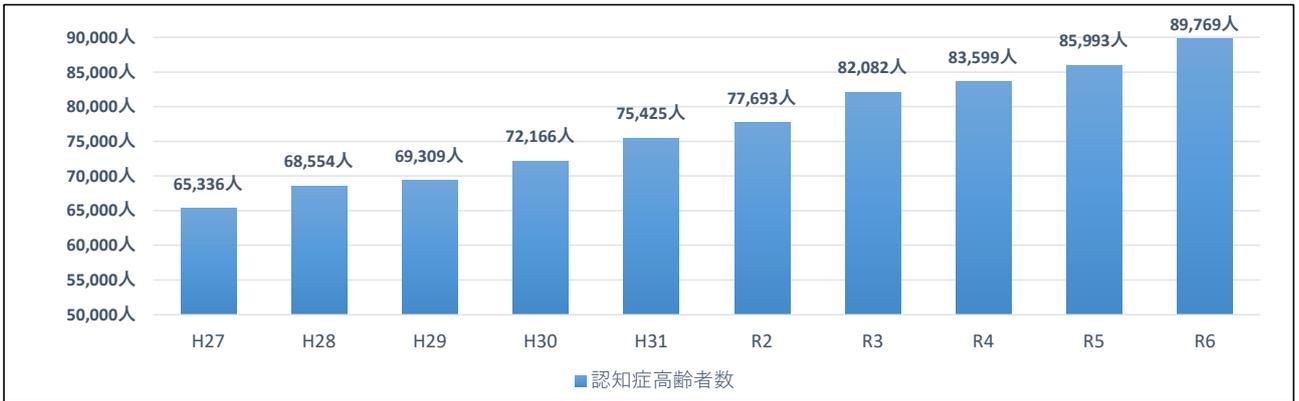
(1) 認知症高齢者数の推移

①高齢者数（第1号被保険者数）

高齢者数（第1号被保険者数）	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)
高齢者数（65歳以上）	680,434人	684,566人	686,968人	687,673人	686,793人	682,062人	676,867人	674,761人
再掲：75歳以上	338,163人	347,195人	356,680人	361,314人	360,296人	364,238人	377,219人	389,621人
再掲：85歳以上	93,334人	98,864人	103,844人	109,293人	115,736人	119,918人	123,754人	125,239人

➤認知症有病率が高い85歳以上の高齢者の増加が、認知症高齢者数の増加に影響していると推察できる。

②認知症高齢者数の推移



認知症高齢者数（※）	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)
65歳以上 (日常生活自立度Ⅱ以上)	69,309人	72,166人	75,425人	77,693人	82,082人	83,599人	85,993人	89,769人
前年増加率	101.1%	104.1%	104.5%	103.0%	105.6%	101.8%	102.9%	104.4%
75歳以上（再掲） (日常生活自立度Ⅱ以上)	61,210人	64,017人	67,179人	69,352人	72,834人	74,217人	77,075人	80,911人

※ここでの「認知症高齢者数」は、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の人数

(2) 認知症高齢者数及び軽度認知機能障害（MCI）者数の将来推計について

研究班による調査報告において、2022年の調査では、認知症有病率12.3%、MCI有病率15.5%であった。なお2012年の調査では、認知症有病率15.0%、MCI有病率13.0%であった。

①性・年齢階級別認知症及びMCI有病率

年齢階級	認知症有病率		MCI有病率	
	男性	女性	男性	女性
65～69歳	1.1%	1.0%	10.0%	4.6%
70～74歳	2.8%	3.1%	12.1%	5.0%
75～79歳	6.0%	7.4%	18.7%	13.8%
80～84歳	15.9%	16.9%	22.9%	21.7%
85～89歳	25.2%	37.2%	34.2%	23.2%
90歳以上	36.6%	55.1%	32.5%	17.0%

※「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」（令和5年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業分）九州大学 二宮教授  
 ↓  
 上記の値に国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）」による大阪市の男女別・年齢階級別人口の将来推計をかけて、大阪市内の認知症高齢者数及びMCI者数の将来推計を行った

②認知症高齢者数及びMCI者数の将来推計（大阪市）

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
認知症高齢者数	9.3万人	10.1万人	10.5万人	10.5万人	10.5万人	11.1万人
MCI者数	10.9万人	11.2万人	11.3万人	11.5万人	11.9万人	12.7万人

➤今後も当面の間、大阪市における認知症高齢者数及びMCI者数の増加が見込まれる

(3) 所在地別の認知症高齢者等（日常生活自立度Ⅱ以上）の数

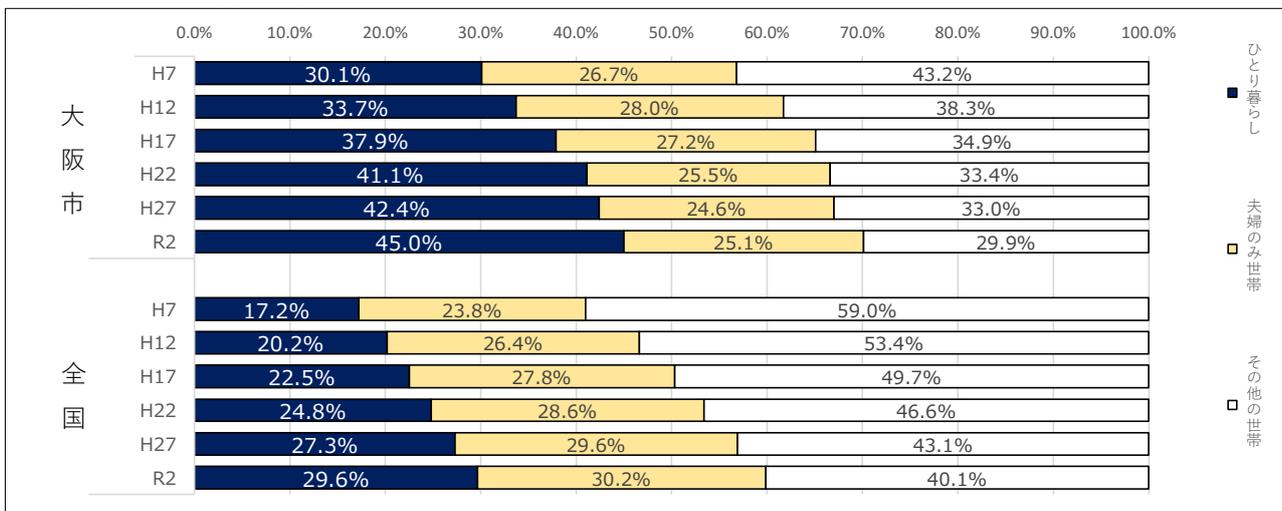
	認知症 高齢者等	認定申請時の所在（再掲）				
		在宅	特別養護 老人ホーム	介護老人 保健施設	介護療養型 医療施設	その他
総数	91,593人	50,632人	7,971人	3,761人	68人	29,161人
40～64歳	1,824人	941人	46人	44人	0人	793人
65歳以上	89,769人	49,691人	7,925人	3,717人	68人	28,368人
65～74歳	8,858人	5,222人	368人	175人	7人	3,086人
75歳以上	80,911人	44,469人	7,557人	3,542人	61人	25,282人

※「その他」は、認知症高齢者グループホーム、特定施設入居者生活介護適用施設、医療機関等

➤2024（令和6）年4月1日現在の要介護認定申請に係る認定調査において、認知症高齢者等のうち約55%の方が在宅で生活されている。

(4) 世帯の状況について

65歳以上の世帯状況の推移



➤令和2年度国勢調査によると、高齢者がいる世帯の状況として、ひとり暮らしの割合が全国に比べ高い状況となっており、今後も増加が続くと見込まれる。

2 若年性認知症について

(1) 大阪市における日常生活自立度Ⅱ以上の数

若年性認知症の人の数	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)
40～64歳 (日常生活自立度Ⅱ以上)	1,508人	1,487人	1,516人	1,519人	1,703人	1,730人	1,792人	1,824人

※ここでの「若年性認知症の人の数」は、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の人数

(2) 若年性認知症の人の推計値

	推計人口数	10万人当たり 有病率（人）	若年性認知症 (推計値・人)
40～44歳	181,518	8.3	15.1
45～49歳	199,923	17.4	34.8
50～54歳	217,784	43.2	94.1
55～59歳	189,121	110.3	208.6
60～64歳	156,975	274.9	431.5
計			784.1

※推計人口数は、大阪市計画調整局の年齢別推計人口（令和6年4月1日現在）

※10万人当たり有病率は、日本医療研究開発機構認知症研究開発事業「若年性認知症の有病率・生活実態把握と多角的データ共有システムの開発」（R2.3）

➤令和2年3月の若年性認知症実態調査結果では、18～64歳人口10万人当たりの有病率は50.9人

➤これを大阪市の40～64歳推計人口にあてはめると、784.1人となる。